

横浜市の建設業界を

“女性にとって働きやすく、魅力的”

にしていくために・・・

～横浜市女性活躍推進協議会「建設業界分科会」の活動報告～

平成30年4月

横浜市女性活躍推進協議会

建設業界分科会

## はじめに

平成 28 年 4 月、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(いわゆる女性活躍推進法)の施行に合わせて、横浜市内の経済団体と行政、関係機関で構成される「横浜市女性活躍推進協議会」が設置されました。

この協議会の活動において、今年度は、業界別に女性の登用推進や働き方の見直しに関する検討を行う分科会が設置されました。

私たちは、その一つである「建設業界」分科会のなかで、「横浜市の建設業界の魅力を学生や一般の方々に知ってもらうためにはどうしたら良いのか?」、「業界全体で女性活躍を進めていくための課題と解決策は?」、「建設業界だからこそできる地域貢献の形は?」について、皆で意見を出し合ってきました。

このたび、活動の内容と検討成果をまとめました。

今後の業界や企業の取組を推進するにあたり、ご活用いただけますようお願いいたします。

横浜市女性活躍推進協議会「建設業界分科会」参加者一同

### « 「建設業界分科会」参加メンバー »

(順不同)

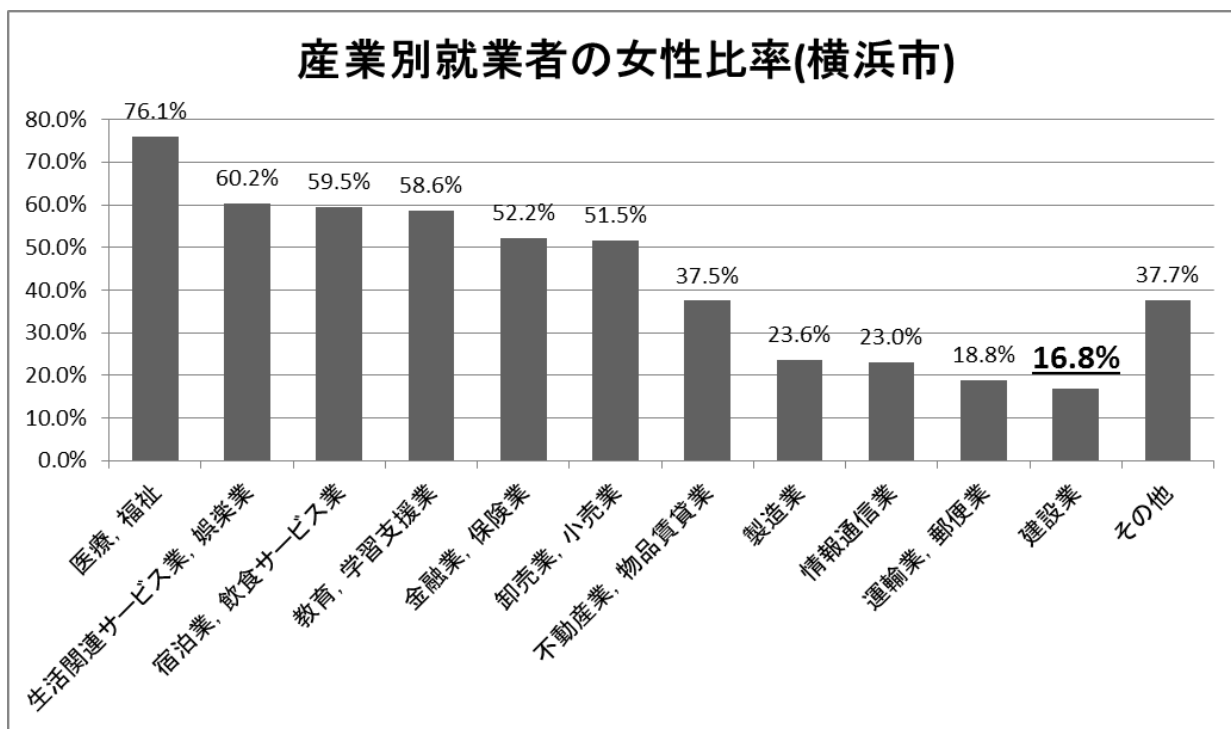
株式会社 小俣組	株式会社 松尾工務店
株式会社 渡辺組	工藤建設 株式会社
大洋建設 株式会社	岡山建設 株式会社
扶桑電機 株式会社	東電同窓電気 株式会社
川本工業 株式会社	三沢電機 株式会社

ファシリテーター	関内イノベーションイニシアティブ(株)
事務局	横浜市政策局男女共同参画推進課

各企業から 1 名ずつ女性社員が参加し、計 10 名で検討を進めました。

## ○建設業界分科会設置の経緯

女性の活躍推進のためには、あらゆる分野において女性の就労や登用が進められる必要があるなか、市内の業種別に女性の割合を見てみると、建設業は16.8%と、とりわけ低い状況にあります。そのため、横浜市女性活躍推進協議会の平成29年度の分科会活動を開始するにあたり、この建設業界における女性の雇用及び登用を後押しすることができれば、市内全体の女性活躍も進むとの考えのもと、建設業界分科会が設置されました。



出典：総務省「平成27年国勢調査」

## ○分科会活動の目的

建設業界はこれまで、男性職場という印象が強く、女性が参画しにくい業界であるように捉えられてきました。

しかし、現在では女性社員も増加しつつあり、女性が活躍できる業界であるという認識に変わりつつあります。とはいえ、女性社員が今以上に定着し、キャリアアップをしていくためには、まず建設業界自体が魅力的であり、「長く働きたい」と思える業界となることが大切です。

そこで、①いまある業界の魅力をまず再認識し、業界内で実際に働く女性社員の存在を外部にアピール・発信する、②業界がより良くなるための改善点を探り、社内や業界内で改善のための一歩を踏み出す、ことが重要であると考え、分科会ではこの2点をテーマとして検討を行いました。

# 1 建設業界の魅力を伝える

建設業界には、一般の人や学生の方に知られていない魅力が沢山あります。女性が働くうえで感じる魅力をきちんと伝え、これからの建設業界にもっと女性が増えて活性化していくためにはどうすれば良いのか、考えてみました。

## (1) 建設業界のここが良い！

- 仕事の形が成果(建物)として残る。
- 資格をとるための支援や手当が充実している。
- 同業界内で転職しやすい。
- 人やモノとの関わりが深い。視野が広がる、世界がわかる。
- 仕事をするうえで男女間の不平等をあまり感じない。(性別役割分担など)
- 産休や育休、有給休暇が比較的とりやすい。

男性が多い建設業界だが、女性が働くうえで外部の人たちには知られていないような魅力が存在している！

→ こうした魅力を伝えていくことで、建設業界への関心が高まり、建設業界で働きたいという人も増えていくのではないか。

## (2) では、魅力をどうPRするのか

### ① 業界や行政に取組を考えてもらいたいこと

#### ア なるべく早期に取り組み始めてもらいたいこと

- 業界全体でCSRに関するHPを作成する  
→ 1社1社が取り組んでPRするよりも、業界としてPRし、業界自体に魅力を感じてもらった方が、「建設業界」で働きたいという思いを持ってもらいやすい。
- 業界全体でSNS(Instagram等)を使って情報を発信する  
→ 市内の企業や社員が、リアルかつ身近な情報を発信できる共通のSNSを作る。SNSの存在をPRして広めつつ、魅力を発信。
- 業界の魅力を伝えるイベントを開催する
- 業界全体で内勤のインターンシップを実施し、業務を知ってもらう

## イ 将来的に取り組んでもらいたいこと

- 業界として全国ネットでのCM放映を行う  
→ 1社1社では、高額になることもあり実施出来ないが、業界団体として市内建設業の魅力をまとめてCM等で発信してもらえれば、効果は高い。
- 業界の女性社員で学校を訪問し、学生に女性社員の生の声を届ける
- 業界として小中学生向けの体験イベントを実施し、小さいうちから建設業に親しんでもらう

## ②自分たち(1社1社)ができること

- 学校改修などに際し、現場の仮囲いを利用して、魅力をアピールする
- そろいのウェアを着用して清掃活動をするなど、地域貢献をPRする
- 業界を目指す学生に、
  - ▶ 社員と職人が対等である様子を見せる
  - ▶ インターンシップで社員のリアルな声、業務内容を伝える
  - ▶ 現場の写真などSNSでリアルかつ身近な情報を発信する
  - ▶ PR動画を作成し、授業等で流してもらう
- 業界の健康イメージアップのための食イベントを開催し、不健康なイメージを払しょくする

### 【魅力PRパンフレットを作成しました！】

まず自分たちで感じる魅力を伝えることから始められるよう、パンフレットを作成しました。分科会メンバー一人ひとりが伝えたい魅力を紹介しています。

これから就職を考える市内の大学生や高校生に配布することで、建設業界の魅力を知ってもらい、建設業界で働きたいと感じてもらうきっかけとなります。

建設業界、各企業、横浜市が連携して広く伝えていくことが重要です。

是非、このパンフレットを魅力PRに活用してください！

#### 【例】

業界別就職説明会や企業説明会、地域イベント、企業見学会、大学進学への進路選択(文系か理系か)に向けた活用 など



## 2 より魅力的な業界になっていくために必要なこと ～もっと女性が活躍しやすい業界を目指して～

建設業界が今以上に女性も活躍できる、魅力的な業界となっていくために必要なことについて考えました。

### 課題1 産休や育休で人員が不足した際や、短工期での対応が必要になった際など、人員をフレキシブルに増やせるようにする必要がある

#### 【解決のアイデア】

##### ①業界や行政に取組を考えてもらいたいこと

##### <なるべく早期に取り組み始めてもらいたいこと>

- ・産休育休による人員不足を補うため、助成金を充実させる  
→助成が充実すれば、産育休が発生した際、一時的に代替りの人材を雇用するなどの対応もとりやすくなる。また、産育休から復帰して働く女性社員が増えれば、その人自身がアドバイザーやモデルにもなる。
- ・受注案件が適正な工期や価格であったか、完成後に検証を行う  
→これにより、これまで以上に適正な工期と価格が定められるようになれば、過度な働き方や突発的な人員不足を防ぐことができ、より一層女性も男性も働きやすい業界になる。

##### <将来的に取り組んでももらいたいこと>

- ・業界として派遣会社と連携する  
→派遣会社と連携し、業界へのつながぎをお願いすることで、これまで関心がなかった人でも働いてもらえるようになる。また、未経験から社員への登用を目指すようなルートが出来れば、建設業界で働く人が増加する。
- ・行政において、産休育休による人員不足を補う助成金申請をより簡単にする  
→使ってみようと思っても、申請に係る手間を嫌ってあきらめることが多く、申請の負担を軽減することで、利用は増えると考えられる。
- ・業界として保育園を設立し、働き続けやすい環境づくりを進める  
→建設会社社員が優先的に入園できれば、業界を希望する人も増える。

## 課題2 現場に男女別にトイレや着替えスペースが設置されていない場合も多いため、女性トイレ、着替えスペースなどを整備する必要がある

### 【解決のアイデア】

#### ①業界や行政に取組を考えてもらいたいこと

＜なるべく早期に取り組み始めてもらいたいこと＞

- ・横浜市の工事関係の発注条件に、現場施設に男女別のトイレを設置することを盛り込むようにしてもらう

→現状、現場に男女別の仮設トイレを設置する場合なども対象となる助成金がなく、現場へのトイレ設置に関しても何らか、金銭的な補助があると良い。

助成金を整備するのではなく、例えば、公共事業において当初から発注条件に盛り込んでしまえばどうか。

## 課題3 女性でキャリアアップしている例や、産育休から復帰して働いている例がまだ少なく、相談したり、モデルとなるような女性の先輩が必要

### 【解決のアイデア】

#### ①業界や行政に取組を考えてもらいたいこと

＜なるべく早期に取り組み始めてもらいたいこと＞

- ・働く女性同士が交流できる「業界の集い」などを開催する

例) 実践講習会・実演会

- ・他の会社や業種の女性同士が交流できる機会を創出する

- ・横浜市が中心となり、業界内がつながる仕組みや協力体制づくりを行う

→「建設業界」分科会で知り合ったことで、メンバー間で情報交換や相談ができるような貴重なネットワークとなった。この経験から見ても、業界内もしくは他業種も含めた女性社員のネットワークづくりは、女性が働き続けるうえで重要

#### ②自分たち(一社一社)ができること

- ・産育休明けの女性社員がロールモデルとなり、キャリアプランの相談等に乗る役割を担う

#### 課題4 建設業界で働く女性の姿のアピールが足りず、一般的に女性が働く職場というイメージが持たれていない

##### 【解決のアイデア】

##### ①業界や行政に取組を考えてもらいたいこと

###### <将来的に取り組んでもらいたいこと>

- ・業界として派遣会社と連携する【再掲】

→派遣会社と連携し、業界へのつなぎをお願いすることで、これまで関心がなかった人でも働いてもらえるようになる。また、未経験から社員への登用を目指すようなルートが出来れば、建設業界で働く人が増加する。

##### ②自分たち(一社一社)ができること

- ・就職課の先生と交流して情報交換をする

→先生に協力してもらいながら、学生に建設業界のことを知ってもらい、興味を持ってもらう。

- ・男性社員の育休取得を促進する

→男性の家事や育児参画を推進することで、男性職場というイメージを少しずつ払しょくし、女性でも働けると思える業界にしていく。(男性が育休を取得するケースも少ないため、モデルを作ることも重要)

#### 課題5 人材(若手・女性)を育成できる人が少なく、育成を担える人材を確保しなければならない

##### 【解決のアイデア】

##### ①業界や行政に取組を考えてもらいたいこと

###### <将来的に取り組んでもらいたいこと>

- ・業界として、各社で育成を担える人材を研修し、その人材が自社の人材育成を行えるような仕組みを作る

##### ②自分たち(1社1社)ができること

- ・産休育休明けの女性に、産前のキャリアを活かし、人材育成を担ってもらう



### 3 さらに未来を見据えて！ 建設業界だからこそできる、地域や社会への貢献

建設業界が地域社会の人々に必要とされ、これからも成長・発展を続けていくためには、現状の課題解決だけではなく、もっと地域や社会に貢献できることはないのか、建設業界の持つ可能性に目を向けて考えることも必要です。

そこで、各社の取組や他業界で取り組まれている事例なども参考にしつつ、今後どのような形での活動ができるか、意見を出し合いました。

#### 地域貢献を進める意味、進めるうえで重要なこと

～分科会ゲストスピーカー 男澤誠さん((一社)横浜もの・まち・ひとづくり代表)のお話から～

- ①企業や団体が地域活動を進めることで、人材確保にもつながる。(実際に取り組んでいた団体では、地域活動をきっかけに働きたいという申し出があったこともある。)
- ②地域活動を進めていくと、おのずとコミュニティが作られていく。そのネットワークから学校などとのつながりも生まれる。
- ③地域貢献に取り組む会社は強いが、蓄積が必要となる。地域貢献は3～10年先を見据えることが重要となる。



#### 【今後の地域貢献活動についてのアイデア、主な意見】

- 身近な建設現場で、自由研究や廃材を使った子ども向けプログラムができると良い。(現場見学会なども開催できると良い。)
- 地域の110番としての役割や、仮囲いに子供たちに絵をかいてもらうなどの取組があっても良い。
- 1社よりも複数社が協力してできると良い。横浜市が音頭をとり、プロジェクトを進めると良い。

## 《 参 考 》

### ○横浜市女性活躍推進協議会「建設業界分科会」活動実績

#### 第1回 6月8日(木)15:00~17:00

- ・グループワーク【ファシリテーター(委託): 関内イノベーションイニシアティブ】  
①建設業界の魅力について、②建設業界をより魅力的にするために何が必要か

#### 第2回 8月7日(月)15:00~17:00

- ・グループワーク【ファシリテーター(委託): 関内イノベーションイニシアティブ】  
①建設業界の魅力を伝える方法、②建設業界の課題と解決のためのアイデア

#### 第3回 9月26日(火)15:00~17:00

- ・講演「企業の地域貢献活動」【一般社団法人もの・まち・ひとづくり代表 男澤氏】
- ・グループワーク【ファシリテーター(委託): 関内イノベーションイニシアティブ】  
①建設業界として出来る社会貢献  
②魅力発信・課題解決案について  
(会社・業界への要望、行政連携、自分たちでできることは?)

#### 第4回 10月30日(月)15:00~16:30

- ・第3回までの議論まとめ
- ・建設業界魅力PR資料(パンフレット)作成に向けた確認

